

公益財団法人 三重医学研究振興会
令和元年度医学研究助成金研究成果報告書

令和2年2月8日

吉田記念三重医学研究振興会賞（臨床医学部門）

報告者 草川 均（58歳）

所属・職名 松阪おおたクリニック血管外科・医師

受賞の感想と今後の抱負

今回このような格式高い賞をいただき、大変光栄に思います。命には関係のない下肢静脈瘤ですが、一方で多くの元気な方々の生活の質を落としているのも事実です。そのような方々に安心していただけるようなレベルの医療を求めて、また自分の経験を日本だけでなく世界に向けても発信できるように、これからは老体に鞭打って頑張っていこうと思います。

受賞テーマ

難治性のものを含めた下肢静脈瘤治療全般における新技術を導入した治療選択肢の拡大と学術的活動、治療成績分析、治療技術の指導ならびに市民啓発活動推進

業績の概要と将来展望

1. 下肢静脈瘤の診断、治療レベルの向上

三重県における下肢静脈瘤治療は、2008年の段階で、100年前と同じ、侵襲の大きいバブコック法による全長ストリッピングが行われていて、世界の治療、日本の他地域の治療からは大きく遅れていた。また、不全穿通枝を伴う重症皮膚病変を有する下肢静脈瘤治療ができる施設はなかった。そこで、まず、①正確なエコー診断に伴う選択的ストリッピングを内翻法で施行、2012年より入院期間の短縮化を行った。②重症皮膚病変の下にある不全穿通枝に対し、内視鏡下筋膜下不全穿通枝切離術(SEPS)の技術(2010年導入当時は先進医療、2014年より保険収載)を導入し、約160肢に施行し、良好な結果を得た。新しい治療として伏在静脈血管内焼灼術が保険適応となり、2014年より病院でこれを治療選択肢として導入し、麻酔法も全身麻酔から、局所麻酔と神経ブロックの併用で、日帰り手術でも十分可能な麻酔への移行を確立したのち、2015年クリニックへ移って約2800肢(血管内焼灼術は約2300肢)の日帰り手術を行い、患者の生活の質の向上と医療費の削減に寄与した。通常病変に対するラジオ波焼灼術に加え、特殊病変に対してはレーザースリムファイバーの導入で焼灼を行っている。再発性静脈瘤に対する診療、治療経験も多く、病態に応じた豊富な

治療選択肢を持って施行している。要望に応じて、外部施設への治療の技術指導も盛んに行っている。

2. アカデミックな面での活動

日本静脈学会、日本脈管学会、日本血管外科学会を中心に、国際学会やシンポジウム、パネルディスカッションを多数含む75件の学会研究会発表、15編(うち4編は英文)の論文執筆を行った。2017年11月には大阪での近畿静脈フォーラム(評議員)の、2019年7月には名古屋での内視鏡下静脈疾患治療研究会(世話人)の当番世話人として役割を果たした。また、テキストで、2016年に、“内視鏡下筋膜下不全穿通枝切離術”では複数項の執筆並びに編集委員長を、“新臨床静脈学”では複数項の執筆並びに企画編集委員を務めた。後者は日本静脈学会編であるが、現在日本静脈学会評議員を務めている。2018年には自筆原著が日本血管外科学会雑誌の年間優秀論文として選出された。

3. 一般市民への啓発活動

上記のような目覚ましい下肢静脈瘤治療の発展については、テレビや雑誌などで紹介されてはいるものの、疾患や治療についての理解が一般化しているとはいいがたく、自分がそうなのか、そうだとわかっていてもどこへかかればいいのか、どんな治療があるのかが十分周知されていない。このため、定期的な市民公開講座の記載や、ケーブルテレビへの出演、新聞取材などの受諾を行ってきた。

関連分野における本研究の特筆すべき点

治療経験数の多さ、治療選択肢の多彩さ、自験による学術的根拠にて、複雑な病態や重症の下肢静脈瘤患者への対応が可能であり、これを一般に周知することで、恩恵を受けることができる患者さんが増加する。また、治療の難しい再発性病変に対しても適切な治療を行うことが可能である。

本業績の将来期待される点

1. 不全穿通枝の治療に関しては、欧米ではすでに広く行われている血管内焼灼術をはじめとして、保険収載への先端的役割を果たす予定である。また、不全穿通枝治療自体の学術的根拠をより高いものにするためのレジストリー研究(多施設前向きコホート研究)を計画中である。さらに、日本の内視鏡下筋膜下不全穿通枝切離術の技術を学びたいというアジアの国々のニーズに対し、手術模型を作成、技術指導の準備を行っている。

2. 伏在静脈治療に関しては、2020年保険収載となった瞬間接着剤(グルー)による治療を、東海地区を先導して導入し、指導を行っていく。

3. 再発性病変については診断、治療ともに通常症例よりも、修練、熟練を要するが、術後中長期の成績を順次明らかにすることによって、さらなる診断、治療

の質を高めていくことができる。

本業績における実績

手術件数（下肢静脈瘤手術）

松阪中央総合病院時

2008年 36例 43肢

2009年 34例 42肢

2010年 86例 118肢

2011年 133例 182肢

2012年 150例 222肢

2013年 191例 267肢

2014年 225例 311肢

松阪おおたクリニック時

	2015年	2016年	2017年	2018年
総治療肢数	535	567	558	516
うち日帰り	477	531	538	506
うち入院（他院で草川手術）	58	36	20	10
伏在静脈ラジオ波焼灼術	340	398	407	324
伏在静脈ストリッピング	109	65	42	27
下肢静脈瘤レーザー焼灼術				89
重症例のSEPS（伏在と同時）	12(1)	13(7)	8(0)	3(0)
その他	75	98	101	73

現在まで、約 4000 肢の下肢静脈瘤手術を執刀

市民公開講座とマスコミ関連

1) 三重県における下肢静脈瘤治療の現況

草川 均

市民公開講座—下肢静脈瘤セミナー 岩田博英、草川 均

三重県総合文化センター 2015/5/10

2) 下肢静脈瘤について

草川 均、鈴木 修

ZTV(ケーブルテレビ) “おしえて先生” 2015/10/16-31

3) 下肢静脈瘤セミナー

草川 均

松阪シティホテル 2016/5/15

- 4) 下肢静脈瘤セミナー
草川 均
松阪シティホテル 2016/9/22
- 5) 下肢静脈瘤セミナー
草川 均
三重県総合文化センター 2017/2/5
- 6) 下肢静脈瘤手術は怖くない！
草川 均
三重タイムズ 2017/2/17号
- 7) 下肢静脈瘤セミナー
草川 均
伊勢シティホテル 2017/6/4
- 8) 特集一輝いて 下肢静脈瘤日帰り手術
草川 均
三重タイムズ 2017/8/17号
- 9) 下肢静脈瘤セミナー
草川 均
シティホテル望月 2017/11/12
- 10) 下肢静脈瘤について2
草川 均、鈴木 修
ZTV(ケーブルテレビ) “おしえて先生” 2018/6/16-30
- 11) 下肢静脈瘤セミナー
草川 均
松阪フレックスホテル 2018/7/29
- 12) 下肢静脈瘤セミナー
草川 均
松阪フレックスホテル 2019/8/4

略歴

昭和 61 年 三重大学医学部医学科卒業
昭和 61 年 国立大阪病院 外科研修医
昭和 63 年 三重大学大学院入学

平成4年 三重大学大学院卒業
平成4年 三重大学医学部 胸部外科医局員
平成6年 米国 ペンシルバニア州立大学ハーシーメディカルセンターにてリサーチフェロー
平成9年 静岡県 県西部浜松医療センター 心臓血管外科副医長
平成11年 同 医長
平成13年 三重大学医学部 胸部外科助手
平成16年 同 講師
平成17年 三重県厚生連 松阪中央総合病院 胸部外科医長
平成24年 同 部長
平成27年 松阪おおたクリニック 血管外科

専門分野

血管外科、特に下肢静脈瘤の診断と治療

医学博士、専門医資格など

平成4年 医学博士学位取得（三重大学）
日本脈管学会脈管専門医、外科専門医、下肢静脈瘤血管内焼灼術指導医、施行医